

NIFAアクションプラン2018→2022	全体5頁中の1頁
1. 現状の概要と今後の方向性	第4種委員会
<p>○4種12歳以下は、フットボール文化に最初に触れる年代であり、初心者としてのプレーヤーを創出し、かつ保護者や家族ぐるみのサッカーファミリー拡大のための重大なポイントである。</p> <p>○4種登録選手には、その保護者・家族のサポートが必須であり、登録人数の3倍から4倍のサッカーファミリーが 背後に控える。単に登録人数を増やすという以上に4種の普及はサッカーファミリー拡大に対して効果的である。</p> <p>○1996年のチーム登録数105チームに比して2006年は147チームと10年間に約1.4倍に増加した。登録選手数は1996年の3230名から5384名と約1.7倍に増えた。</p> <p>○これは2003年から4年生対象の県大会を実施したことにより、小学校4年生以下の児童の登録が進められたことも一因と考えられる。</p> <p>○しかし、今後子供の数は減少傾向にあり、またスポーツをする子供の数が減少してきており、これからもここ数年と同じように増加傾向に移るかどうかは非常に厳しい状況であると言わざるを得ない。</p> <p>○2015年度から女子U-12選手は4種登録となった。女子U-12選手は4種チームの中で活動し、普及・強化をともに進めるためである。4種男子選手の登録数が頭打ちでむしろ激減していく中、女子U-12選手を掘り起こし普及活動を推し進める以外にも、サッカーファミリーを維持・拡大する道はない。キッズ委員会・女子委員会と連携し、U-10の普及を推進していくとともに、4種・女子・キッズで連携し、U-12女子、U-10女子の8人制県大会を実現していく。</p> <p>○競技レベルとしては、全日本少年大会の結果を見ると、2015年から2017年までの3年間に県代表として出場した3チームの勝率の合計は9試合3勝0分け6敗と33%である。全国での下位三分の一を抜かれていない。</p> <p>○バーモント杯フットサル大会は、2015年から2018年までの4大会の県代表チームの戦績は、予選リーグ合計12試合5勝2分け5敗で全国中位である。決勝トーナメントベスト16には2015年25回大会でクラブF3が進出したが1回戦で敗れた。全国大会や全国規模の大会などで決勝トーナメントにコンスタントに進出していくようなチーム作りを目指していかなければならない。</p> <p>○(普及) 2015年4種登録チームは168チーム、4種登録選手は5,417名(内、4種女子登録選手は288名)である。少子化の波は大変大きいのが、2007年度以降、ほぼ5500名程度を減らすことなく推移している。2014年度は県教育庁の統計によると県内小学生の児童数は、115671名である。2014年度4種登録人数は、5656名であり、全小学生に対する割合は、4.89%である。今後は男子とほぼ同数の人数がいる女子小学生への普及活動が重要である。4種登録人数の女子への普及とキッズ年代(10歳以下)の普及を各種大会をキッズ委員会や女子委員会との連携を軸に、継続して開催し、さらなるサッカーファミリーの拡大を目指して普及活動を展開していく。</p> <p>○(強化) ジュニア世代の強化は堅実にかつ、確実に進んでいる。トレセン活動においても、現在、北信越で新潟県選出の選手の活躍をめざましいものがある。だが、近年長野県など有力な選手を多数輩出するようになってきている。トレセン選手を派遣している関東選抜少年サッカー大会では、東京代表や神奈川代表、横浜代表などの全国レベルの中で競い合い切磋琢磨している。今後とも常にこの状況を維持し、県全体のレベルアップの底上げを図り、引き続き、全国大会でもベスト4以上、そして優勝を狙えるチームを目標に活動を展開していく。</p>	
NIFAアクションプラン2018→2022	全体5頁中の2頁
2. 中期目標(2030年)	第4種委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・4種登録者数が8千人(内女子1500人)となる。登録数×3=サッカーファミリー数(2万4千人) サッカーファミリー目標12万人の2割を実現する (2018年度4種協会登録人数4749人(内女子U12は268人)、協会登録人数13822人、サッカーファミリー約8万人) ・4種女子の大会を充実し、さらに3種・キッズとの連携を進め、4種女子の登録人数が1000人となる。 ・3年生以下の交流試合・親善試合が地区やブロック内などで開催され続ける。 ・地区協会と連携し、地区、ブロック内のリーグ戦を開催し続け、6年生リーグ、5年生リーグ、4年生リーグ、3年生リーグなど学年ごとのリーグ戦が継続して開催される。 ・全国あるいは全国レベルの大会にベスト4以上に入る。 ・国際少年サッカー大会を開催する。 	
NIFAアクションプラン2018→2022	全体5頁中の3頁
3. 長期目標(2050年)	第4種委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・4種登録者数が1万人(内女子3000人)となる。登録数×3=サッカーファミリー数(3万人) サッカーファミリー目標15万人の2割を実現する (2018年度11月末4種協会登録人数4749人(内女子U12は268人)、協会登録人数13822人、サッカーファミリー約8万人) ・4種女子の大会を充実し、さらに3種・キッズとの連携を進め、4種女子の登録人数が3000人となる。 ・3年生以下の交流試合・親善試合が地区やブロック内などで開催され続ける。 ・地区協会と連携し、地区、ブロック内のリーグ戦を開催し続け、6年生リーグ、5年生リーグ、4年生リーグ、3年生リーグなど学年ごとのリーグ戦開催を続ける。 ・全国あるいは全国レベルの大会にベスト4以上に入り続ける。 ・国際少年サッカー大会を充実開催し続ける。 	

NIFAアクションプラン2018→2022					全体5頁中の4頁
4. 現状分析					第4種 委員会
No. と 事項	2022年具体的目標	2018年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
1	普及 登録者数 U-12 6,000名 (内、4種女子 1000名)	登録者数 U-12 4749名(2018年11月末現在) (男子4,479名、女子268名)	60%	男子の登録者数は2014年度5千人台から4千人台に激減。減少率は年5%以上。小学生女子の登録人数は横ばい。低学年男子と女子のプレーヤー創出を目指す必要がある。	キッズ(U-8)と女子U-12のためのイベントを定例で設定する。地区・ブロックでなでしこ広場やキッズイベントを女子委員会・キッズ委員会と連携して実施していく。
2	強化 地区、ブロック内のリーグ戦を推進	4地区、8ブロックで実施(実施7年目)	100%	U-12サッカーリーグについては、8ブロックですべて実施できた。U-11は3ブロック、U-10は4ブロックでの実施にとどまった。	少子化により、単位団体あたりの学年選手数が減少している。そのため、U-12とU-11を同時に実施することが難しくなっている。U-10は2016年度は5ブロックで実施の計画である。
3	強化 地区・ブロックトレセン活動 地区(ブロック)を堅実に実施していく。技術委員の負担、日程、経済的負担等選手への負担など課題が多い。	4地区、8ブロックで実施。 技術委員会で地区・ブロックトレセンを組織推進し、計画的に実施していく。	100%	指導者不足の問題はあるが、各地区。ブロックで献身的な指導者の努力によって持続できている。	地区インストラクターなど技術委員会指導者の巡回指導を計画的に組み入れていくなど指導者のレベルアップ
4	強化 県トレセン活動を堅実に実施していく。スタッフの不足、日程調整の難しさ、選手の負担など課題が多い。 県トレセン活動から北信越トレセンへ選手を輩出している。	県トレセン活動を計画的に推進し、北信越トレセンや選抜大会で上位の結果を得続ける。	100%	担当者の継続的な努力によって、維持・発展している。	特定の個人の努力にのみ頼るばかりでなく、県サッカー協会として継続的な支援と賞揚を図ることが必要である。
5	強化 全国大会ベスト16	全日本少年サッカー大会予選リーグ敗退 バーモントカップ全日本少年サッカー大会決勝トーナメント進出(ベスト16)	50%	北信越5県中においては常に優勝を目指すレベルにある。全国レベルでは、常にベスト16以上の位置をキープできているがさらにベスト8以上の位置を目指している。	特定のクラブ団体の努力のみによるのではなく、リーグ戦文化の醸成やサッカー文化のさななる浸透・発展を基礎としてレベルアップを目指す。
6	普及 と強化 国際少年サッカー大会を実施する。	未実施	0%	新潟市とウルサン、新発田市と釜山など都市間交流を基に国際少年サッカー大会に発展する方途を模索している段階であるが、教科書問題や歴史認識問題など政治的はデリケートな障壁があり、なかなか前進できない。	その他の都市間の交流関係を調査し、相互に連携したり、統合を図るなど国際交流の機会の拡大の可能性を探っていく。 韓国・中国以外のアジアの国々やその他の地域との国際交流の可能性を探っていく。
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2018年目標に向けての2015年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

NIFAアクションプラン2018→2022					全体5頁中の5頁
5. 具体的アクション					第4種 委員会
No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
1	第4種委員会が	各年度毎に	委員会内で	チーム登録数と登録選手を	把握し、各地区ごとの推移について委員会内で、情報提供する。
2	各地区総務委員 (またはリーグ担当者)が	各年度毎に	各地区・ブロックにおいて	リーグ戦を	各カテゴリー事に計画し、実施する。
3	各地区・ブロック 技術委員が	各年度毎に	各地区・ブロックにおいて	地区・ブロックトレセン活動を	計画的に実施する。
4	県技術委員会・ト レセンスタッフが	各年度毎に	県トレセンにおいて	県トレ活動を	計画的に実施する。
5	各チーム指導者が	各年度毎に	各地区において	練習や試合を	計画的に実施し、チームの強化を図る。
6	第4種委員会が	2018年までに	県内実施可能な地区(ブロック)で	国際大会を	開催できるように情報収集し、国際大会の情報を発信して、実現できるようにする。

↑現状分析での事項No.に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です